

PCT news letter vol.10

Palliative Care Team:緩和ケア委員会からのお知らせ

「退院して家で過ごしたい」という思いを支援したい

総合上飯田第一病院緩和ケアチーム（PCT）の活動をご紹介します。今回は3月にリハビリテーション科、4月に医療福祉相談室から発信してもらった公開カンファレンスの内容についてです。当院のPCTは医師・看護師のほかにも6つの専門職から委員が参加しているところに大きな特色があるのですが、お互いの活動内容を実は詳しく知らないということに気づき、薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士・臨床心理士の順に院内職員に対する講義を行ってきました。今回でとうとうこれが一回りしたわけですが、作業療法士・医療ソーシャルワーカーの両者もやはり緩和ケアにおいて非常に重要で、しかも愛と情熱の感じられるかわりかたをされているということが参加者に直接伝わったようです。どんな病期であっても「退院して家で過ごしたい」というご本人の思いをできるだけ支援したい。押し付けや追い出しにならないように、患者さんやご家族のお気持ちと病状をチームでしっかり把握したうえで、在宅緩和ケアに移行できるケースとみたら速攻、チャンスを逃さないように全力でサポートする。また何か問題が起こった場合・自宅療養が困難な状況になった場合は、365日24時間当院での再入院受け入れ可能という体制を作り、きちんと伝えて安心していただく。今後も訪問看護ステーションや往診医などとの地域連携を強めながら、この方向性を大切にしていきたいと思いました。

『医療ソーシャルワーカー（MSW）とは？』 MSW 高城 依子

「医療ソーシャルワーカーってどんなことをしている人なんだろう？」と思われる方が多いと思います。今回、医療ソーシャルワーカーの役割についてご紹介します。

医療ソーシャルワーカーは、入院治療・療養生活に伴う生活上の不安や悩みについて、ご相談にのっています。

例えば…

- ・ 治療を続けたいけれど、医療費がどのくらいかかるか心配
- ・ 医療費の負担がかさんで生活が苦しい
- ・ 家に帰りたけれど、介護ができるか不安
- ・ 介護保険制度や障害者手帳等の各種制度について知りたい、利用したい 等

ご相談を希望される方は、

- ①当院代表電話から直接医療福祉相談室へお電話頂くか、
 - ②病棟看護師（通院されている方は外来看護師）へお声掛け下さい（尚、相談は予約制となっております）。
- 患者さんや家族と話し合い、生活上の不安や悩みについて、より良い解決方法を見つけるお手伝いをします。安心して治療を受け、療養生活が送れるように一緒に考えていきます。



当院には6名の医療ソーシャルワーカーがおります。入院された場合は、各病棟ごとに担当者が決まっています。

医療福祉相談室は当院北館3階（売店の横）にあります。お気軽にご相談下さい。（相談は無料です）



『意味ある作業』の実行を目指して 作業療法士一同



PCTの基本方針として、本人や家族の希望がある限り、どんな病状であっても、医療資源などを最大限に活用して在宅復帰を目標にしています。その中で、作業療法士（以下、OT）として、どこまで支援できるかを考えてPCTの一員として活動しています。

なぜOTなのか？

作業療法が介入する上で目標とするところは、患者さんにとって『意味ある作業』を実現することです。身体機能や認知機能に障害があっても、どうすればその『意味ある作業』を実行できるのかを、患者さんとともに考え、練習します。PCTの患者さんにとって、筋力を向上させたり、関節を柔らかくすることは、果たして限られた時間の中でやりたいことなのでしょうか？もしかしたら、体力が低下している状態でも、外出して桜を見たり、お茶を飲んだりすることがやりたいことではないでしょうか？

患者さんが「家に帰ってゆっくり過ごしたい」と希望があれば、安全に自宅で生活できるのかをお家に伺って調べに行きます。その中でできないことがあれば、福祉用具を使用して、それができるようにならないか、なども検討します。希望をできるだけ長い間、実現させるために転倒せず安全に暮らせるように、転倒の危険のあるところもcheckして改善します。入院中に退院前訪問指導という形で行いますが、これには本人・家族の要望・了承があった場合に行っています。

もちろん、関わった患者さんのすべてが在宅復帰できるという訳ではなく、看取り目的入院にも対応しています。そのような患者さんにはできる限りのQOL向上を目的に、OTとともに外出・買い物などを行っています。ただ最近、OTと患者さん（ご家族）で行くことが多いので、病棟のPCTも来てくれるといいと思います。PCT以外のスタッフも大歓迎ですよ。そこでしか得られない患者さんの笑顔だったり、動作だったり、新たに発見することが多いのです。

OTの自慢もあります！

2012年第46回日本作業療法学会（宮崎）で、「終末期がん患者の住環境整備～自宅で安全に生活するために～」でポスター発表をしました。その後、日本作業療法協会から文献依頼のお話があり、現在製作中です。

また、2013年2月に東海緩和医療研究会で、「PCT介入患者の在宅生活を目標とした作業療法士の取り組み」という演題でも発表させて頂きました。

そして、今年6月には第47回日本作業療法学会（大阪）で、「がん患者と家族の

ための在宅復帰の支援」「がん患者におけるQOL側面の評価の意義～MQOL日本語版を使用して～」の2題を発表する予定です。

現在の日本では、がんを抱えた患者さんが在宅復帰するにあたって、OTが病院と在宅を繋ぐために介入するような事例や取り組みはほとんどないのです。なので、**当院のPCTのOTが行っていることは、日本でも稀な事でもあり、『OTにしかできないのです。』**今後もこのような取り組みをもっとアピールをしていきたいと思っています。そしてまたまた早速ですが、2014年の第16回世界作業療法士連盟大会（横浜）に1題ですが、演題登録を行いました。2013年の7月には演題採択が決定する予定です。

前回のアンケートの回答で、「リハビリとカンファをしたい」etcといった要望が多くありました。カンファはいつでもいいです。声をかけてくれれば時間を見つけて各病棟へ行きます。結構、OTのスタッフはウロウロしていることが多いですよ。

文：玉木 聡



リハビリスタッフ

次回の青空コンサートのご案内



さて、来る**7月13日（土）**、また患者さんやご家族のみなさんに一緒に楽しんでいただこうと、第3回青空コンサートを予定しています。出演者はPCTの枠にとらわれず、広く職員全員と患者さんから募集し、おもに楽器経験者によるジャズバンド「上飯田スイングガールズ&ボーイズ」と、コーラス団「青空エコーズ」を再編成しました。次回出演応募などコンサートに関するお問い合わせは、**青空コンサート実行委員会** (aozora_concert_kamiida@yahoo.co.jp) までご連絡ください！！